

長岡京市第三期環境基本計画

(概要版)

令和4年3月
長岡京市

“環境の都”長岡京市環境都市宣言

西山の自然に抱かれ、悠久^{ゆうきゅう}の歴史が刻まれた長岡京市。
緑と水に恵まれ、多くの命が育まれてきました。

しかし、私たちが自然への畏敬と感謝を忘れ、物質的な豊かさを求め続けた結果、
温暖化をはじめ、地球規模で様々な環境の悪化が進んでいます。

人類は、自然の一部であり、自然との共生によってのみ存続が可能です。

これを踏まえ、私たち長岡京市民は、自然と共生する持続可能な社会を目指し、
世代を超えた市民と企業や諸団体そして行政等との協働により、生活様式や、社会
のあり方そのものを見直します。

未来の子どもたちが心の安らぎと豊か^{えい}さを得られる“環境の都”長岡京の実現が、
今の私たちに課せられた責務です。

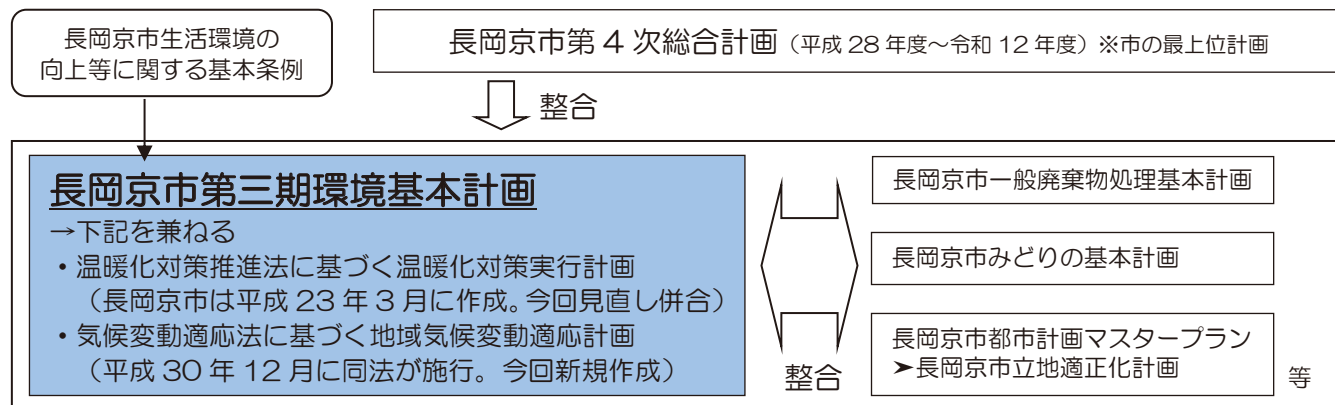
私たち長岡京市民は、先人の歴史と叡知^{えいち}に学び、あらゆる人々と手を携え、真に
環境都市として誇れるまちづくりに取り組む決意をここに宣言します。

平成21年4月1日

※市における政策の策定、実行の中心に「環境」を位置付け、市の取り組み姿勢を明確にするため、平成21年4月1日に宣言しました。
同宣言については、平成13年3月に策定された第一期の長岡京市環境基本計画にプロジェクトとして掲げられていたものです。

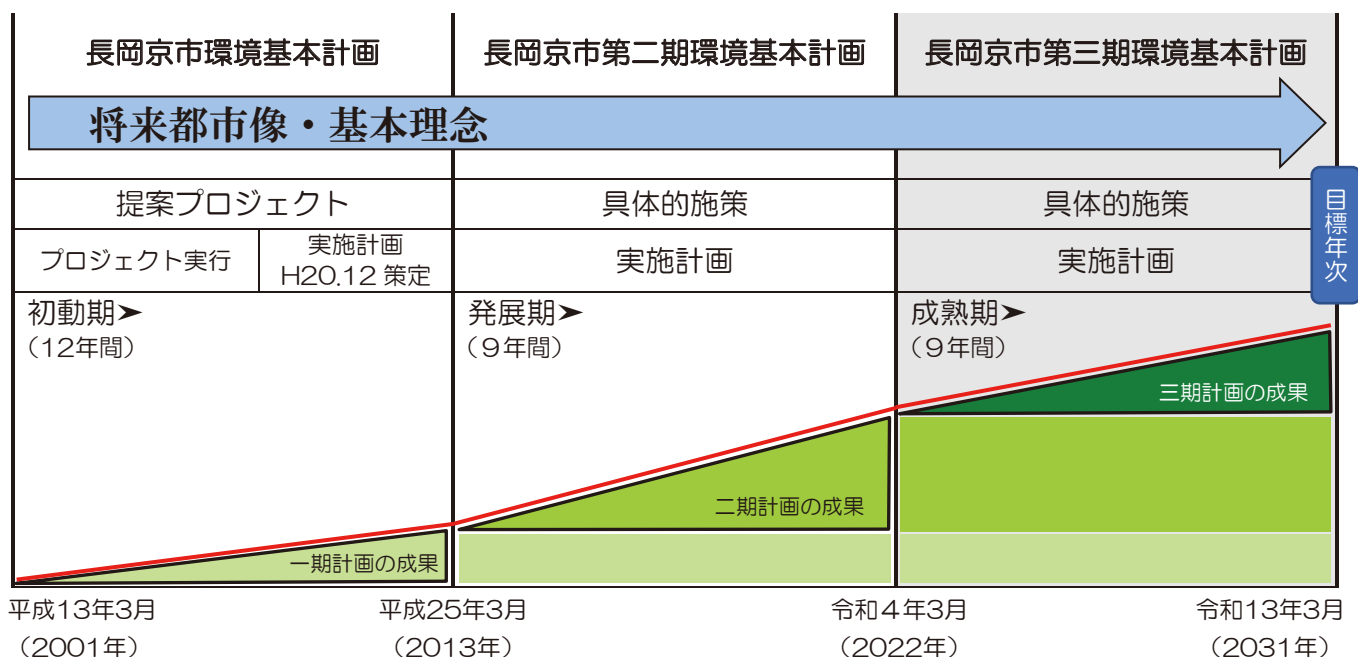
■計画の位置付け

「環境基本法」の趣旨を踏まえ、長岡京市の環境施策の基本的方針を定めたものであり、「長岡京市生活環境の向上等に関する基本条例」に基づく計画の三期目です。今回から、下図のとおり、温暖化対策実行計画を見直した上で併合するとともに、新計画である地域気候変動適応計画を兼ねています。



■計画期間・各期計画の成果イメージ

初動期としての一期計画、発展期としての二期計画に続く、成熟期としての計画で、令和4年度から令和12年度までの9年間を計画期間とします。また、パリ協定をはじめとする近年の様々な環境課題に早期に対応するため、三期計画への移行を、当初の予定から1年前倒ししています。



■環境の範囲



つむぎ織りなす

みやこ
“環境の都” 長岡京

■持続可能なまちづくりの七つの基本理念

将来都市像の実現に向け、下記の基本理念に従いながら、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsの分野横断的視点を持ってまちづくりを進めていきます。

- ① 全ての施策・行動を持続可能性に基づいて策定し、総合化します。
- ② 環境と地域経済・雇用・生活の質の改善を両立させます。
- ③ 地域に固有の自然と文化を大切に守り、育てます。
- ④ 社会的公正に配慮し、全ての人々と資源と環境を分かち合います。
- ⑤ 資源・エネルギーが循環する地域をつくります。
- ⑥ みんなが参加して、一緒に計画をつくり、実践し、継続的な活動を目指します。
- ⑦ 持続可能な社会を実現するための教育、人づくり・人結びに力を注ぎます。

より実践しやすくするため具体化

四つの分野横断的視点及び施策 ➤ 6 ページ



SDGs への貢献

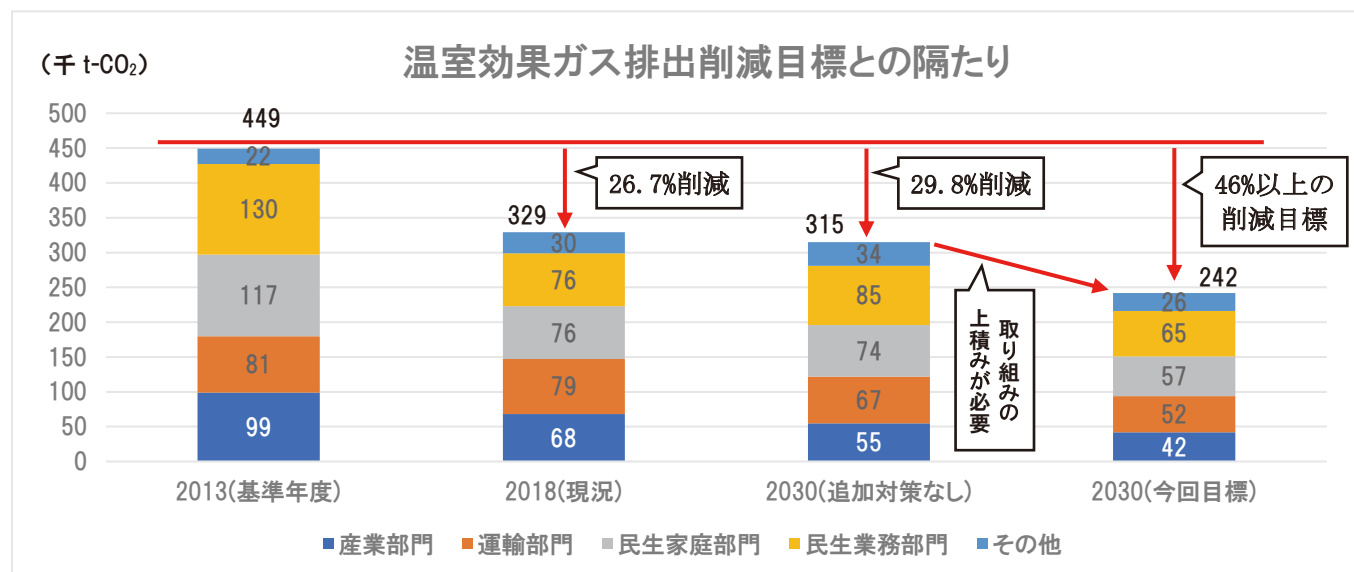
分野横断的
課題の解決



環境・経済・社会
の統合的な向上

■長岡京市の温室効果ガス排出量の現状と目標

長岡京市では、京都府等の統計数値等をもとに、温室効果ガス排出量の算定を行っています。算定に必要な数値が出そろっている直近のデータで329千tの温室効果ガスを排出しており、このまま追加的対策を取らなかった場合の将来予測値では、2030年度時点で29.8%の削減にとどまることが示されています。目標値は46%以上の削減ですので、更なる取り組みの上積みにより、目標の達成を目指します。



■基本施策（柱）

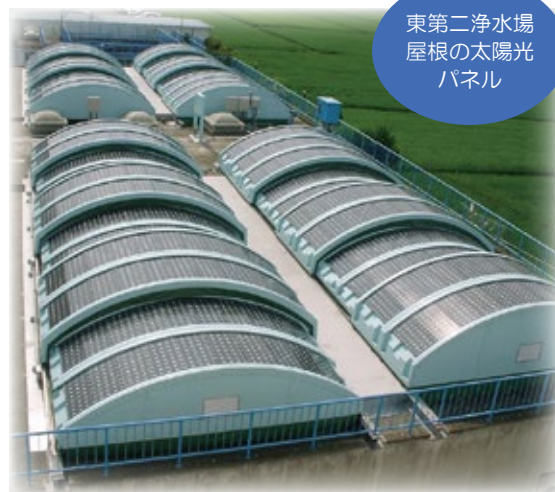
長岡京市は **2050年ゼロカーボンシティ** を宣言します

1 気候変動対策（緩和・適応）

～脱炭素化に向けた持続可能なまちづくり～

(1)再生可能エネルギーの普及	①家庭、事業者等への再生可能エネルギーの導入 ②公共空間における再生可能エネルギーの導入 ③自立・分散型エネルギーの地域づくり ④未利用エネルギー等の活用検討
(2)省エネルギーの推進	①エネルギー効率の改善 ②省エネ型ライフスタイルへの転換促進
(3)エコ建築の普及	①エネルギー効率が高く環境に配慮した公共建築物等の整備 ②ゼロエネルギー建築物等のエコ建築の普及促進
(4)エコ交通システムの導入	①公共交通利用の促進 ②次世代自動車等の普及促進 ③自動車の排出ガスの抑制 ④自転車利用の促進
(5)気候変動への適応推進	①農業をはじめ気候変動に適応した事業等の継続支援 ②将来にわたり安全で安定した水資源の維持 ③移り変わる自然生態系の監視・保全と感染症・熱中症対策 ④災害に強く新しい気象環境に適応したまちと森づくり

気候変動の「緩和策」だけでなく「適応策」も必要



東第二浄水場
屋根の太陽光
パネル

【主要成果指標】

市域における温室効果ガス排出量
2013年度比 46%以上削減
現状値：26.7%（2018年度）

【サブ成果指標】

戸建住宅に占める太陽光発電設備導入率
13.1%
現状値：7.3%（令和2年度）

2 資源循環

～水と資源が循環するエコなまちづくり～



市庁舎での
フード
ドライブ
の取り組み

(1)廃棄物の発生抑制	①食品ロス・プラごみの削減 ②ごみ減量につながる広報活動等の展開 ③廃棄物減量等推進員の活動促進
(2)再生利用・資源回収の推進	①分別収集の促進 ②市民が主体となった資源回収の支援 ③再資源化領域の拡大
(3)廃棄物の適正処理	①一般廃棄物等の適正な処理 ②粗大ごみ等の適正な処理 ③災害時等の廃棄物処理体制の強化
(4)水資源の有効活用・水環境の整備	①水を大切にするライフスタイルの普及啓発 ②将来にわたり安全で安定した水環境の維持

【主要成果指標】

1人1日あたり収集ごみ量(資源ごみ除く)419g以下
現状値:451g(令和2年度)

【サブ成果指標】

一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量
7,928t-CO₂以下
現状値:8,527t-CO₂(令和2年度)

3 環境共生

～環境共生型社会の形成～



間伐して光が
入るように
なった森林

(1)西山をシンボルとする自然環境の保全・再生・活用	①西山の森林整備 ②生物多様性の保全 ③西山の有効活用 ④森林組合の育成
(2)竹林の保全・再生・活用	①竹林の整備 ②竹の持続可能な利活用に向けた調査研究
(3)環境にやさしい農業の推進	①環境負荷に配慮した農業の推進 ②市民の農業理解の促進 ③地産地消の推進 ④農地の保全
(4)水辺環境の保全・再生	①河川・水路の維持管理 ②ホタルの保護と育成

【主要成果指標】

森林整備による西山の森林のCO₂吸収量
1,667t-CO₂以上
現状値:1,536.17t-CO₂(令和2年度)

【サブ成果指標】

西山における植物調査で確認できる種の数
の維持
現状値:168種(平成27年度～令和2年度で最も少なかった数)

4 都市環境

～快適で安心な都市環境づくり～



みどり豊かな
西代里山公園

(1)身近なみどりの保全・創出	①まちなかのみどりの創出 ②公園緑地の整備・維持管理 ③緑の協会と連携した緑化の推進
(2)環境に配慮した都市空間整備	①環境配慮型の都市基盤整備 ②歩きやすい道路空間整備 ③個性ある景観の保全・形成 ④グリーンインフラの活用
(3)歴史文化資源の保存・活用	①歴史文化資源の保存・活用 ②まちなか博物館ネットワークの整備
(4)環境美化の推進・住みよい生活環境の維持	①地域の清掃活動の促進 ②環境保全に係る啓発 ③空き家や空き地の適正管理の推進 ④環境調査の推進

【主要成果指標】

住民1人あたりの公園面積の増加
現状値:3.32㎡(令和2年度)

【サブ成果指標】

みどりのサポーターによって管理されてい
る緑地の数の維持
現状値:176箇所(令和2年度)

グリーンインフラ…自然が有する多面的な機能を活用したインフラストラクチャー。CO₂吸収源、気温上昇抑制など様々な役割が期待される。

■分野横断的視点及び施策

2015年9月の国連サミットにおいて採択された、「持続可能な開発目標」SDGs（Sustainable Development Goals）の視点を施策に取り入れます。SDGsには17のゴールがありますが、その重要なところは、「環境」「経済」「社会」と多分野にわたるゴールの統合的な向上を目指すことにあり、言い換えれば、個々の分野の向上を目指しつつも、他の分野が犠牲になってはいけないという、分野横断的視点の重要性をうたっているものです。

長岡京市第三期環境基本計画において環境施策を進めていくにあたっては、縦の施策展開だけでなく、これまでの七つの基本理念を継承した、より具体的な分野横断的視点を持って施策を進め、環境への貢献をした上で、経済・社会へも貢献することを目指します。



グリーンコンシューマー…「環境に優しい消費者」という意味で使われ、環境に配慮した商品を選択する消費者を指す。
エシカル消費…「倫理的消費」と訳され、環境分野に限らず、倫理的な面に問題がないかに目を向ける消費行動のことを指す。
COOL CHOICE…温暖化対策になって暮らしやすさにもつながる「賢い選択」を指す。平成30年に市としてCOOL CHOICE宣言を行った。

■人結び・SDGsモデルプロジェクト

若者、事業者、地縁団体、テーマ団体、中間支援組織、行政など、異なる立場が連携することで、ページの分野横断的視点に基づく施策展開「SDGsへの貢献」を目指す象徴的なプロジェクトです。既存の主体同士を課題や目的に応じて結び付け、多方面での協働グループの形成を促します。

【ねらい】

- ①環境問題に主体的に取り組む担い手の支援・育成
- ②活動を「見える化」し、「市民→市民」の啓発を活発化し、環境問題の「自分ごと化」を促す。

【プロジェクト例】※あくまでモデルとして抜粋したもの。市民協働による事業はほかにもあります。また、今後も拡充していきます。

ゼロカーボン社会を目指し、環境に優しく地域経済が循環するまちの視点

◎排出量取引を活用した、事業者と市民・団体等をつなぐ仕組みづくり

市民等が太陽光パネルの設置などにより生み出した温室効果ガス削減効果を価値化し、地元企業がCSR活動の一環として購入する仕組みができれば、気候変動対策と地域経済循環を同時に確立することができます。長岡京市はそうした仕組みの構築を目指します。



◎事業者と連携したペットボトルの水平リサイクルの推進

ペットボトルからペットボトルというように、同じ製品に生まれ変わらせることを「水平リサイクル」と言います。これにより、新たに投入される化石資源が節約できる上に、製造過程のCO₂が抑制され、また、最終焼却される製品が減ることでCO₂の排出が減ります。長岡京市は使い捨て大量消費のライフスタイルの見直しとともに、ペットボトルの水平リサイクルを推進していきます。

環境と調和のとれた新たな地域の魅力を創造するまちの視点

◎西山森林整備推進協議会活動

平成17年、「西山森林整備推進協議会」を設立し、産官学等が連携して、森林の持つ多面的機能を守る活動を展開しています。平成28年度には、ふるさと納税を活用して森林整備を行う事業を開始しました。担い手の育成・継承にも目を向けつつ、今後も同協議会の活動を推進していきます。



エコライフと暮らしやすさを両立するまちの視点

◎マイプラレディ運動の拡大

マイバッグやマイボトルを奨励する「マイ・プラ・レディ運動」my（私の）・pla（プラスチック類は）・ready（自分で準備）を広めることで、プラスチックごみの減量を進めるとともに、これまでの習慣、様々な慣習を見直す取り組みを進めます。

持続可能な未来を築く、人が育ち・学び・人がつながる環境の都の視点

◎地域内での異なる団体間の交流の機会の創出

年齢層の高い環境団体と、これからの社会を担う若者とを結び付けたり、地縁団体と環境をテーマとする団体とを結び付けたりするなど、世代間交流や異なる主体間の交流を進める中で、市民同士の環境意識啓発の活発化を目指します。

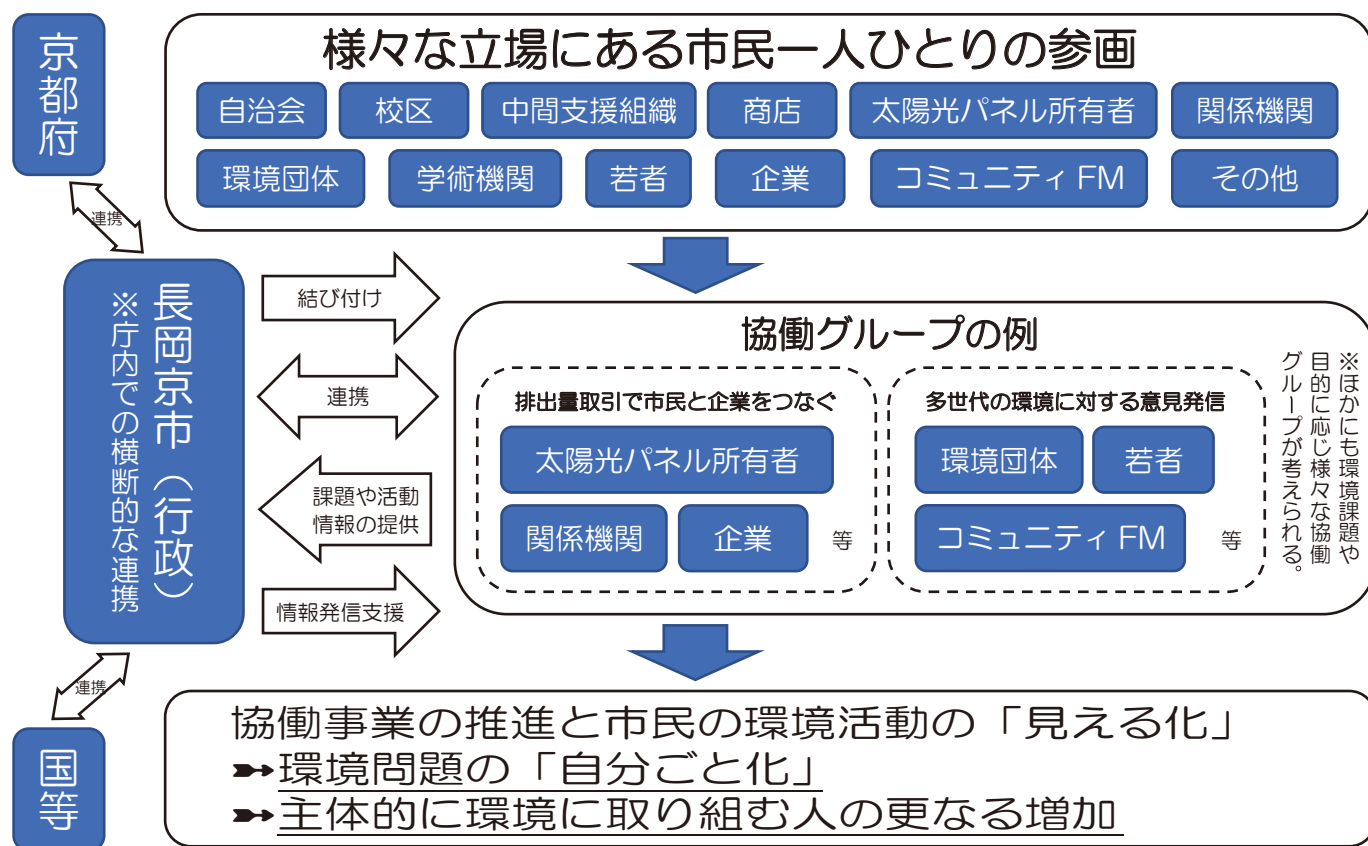


■計画の実行体制

計画の実行にあたり、庁内においては、各部局が分野横断的視点を持つとともに、部局間の垣根を超えた連携が必要です。また、国や京都府、関係機関との連携も重要です。また、中核となる人材と積極的に関わりながら、市民、団体、事業者等とのパートナーシップが特に重要です。

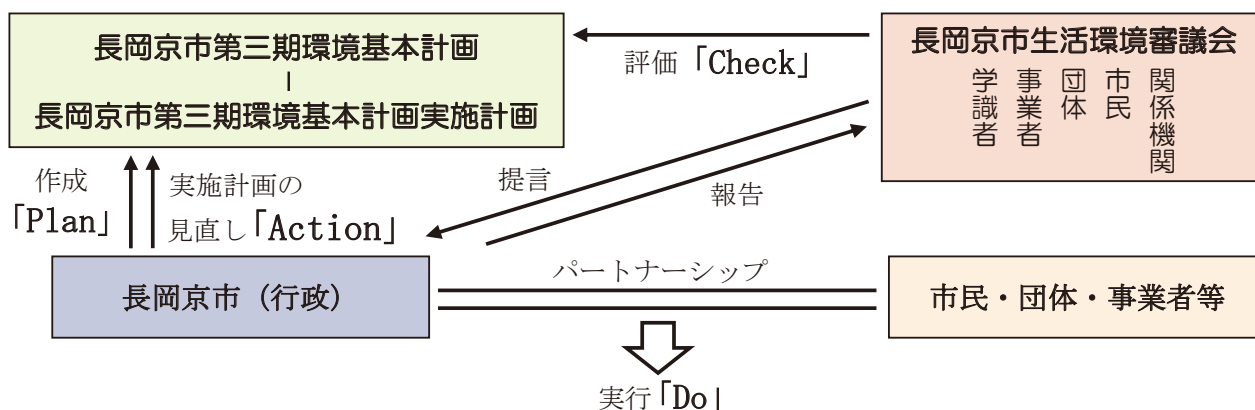
◎パートナーシップの形成

第三期環境基本計画では、広範にわたる環境課題に、より加速度的に対処するため、環境課題や目的に応じ、既存の主体同士を結び付け、多方面での協働グループの形成を促します。分野横断的視点及び施策、人結び・SDGsモデルプロジェクトを推進するためには、特にこのパートナーシップが重要となります。



■計画の進捗管理

計画を着実に実行するため、第三期環境基本計画の実施計画を策定し、適宜見直していくこととします。計画の進捗評価・見直しは、学識者や市民等からなる長岡京市生活環境審議会が担い、施策提言をいただきながら、評価結果を公表することで、適切にPDCAサイクルを回していきます。



長岡京市第三期環境基本計画（令和4年3月）

長岡京市 環境経済部 環境政策室

〒617-8501 京都府長岡京市開田1丁目1番1号 電話：075-951-2121（代）